コロナ病棟スタッフが今伝えたい事

2021 年 11 月 14 日

中東遠総合医療センター　　波多野恵

当院では、2020 年 2 月 11 日にクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」の COVID-19 の患者を初めて受け入れました。

私は最初、一般病棟で働いていたため、そのニュースを全国ニュース「ミヤネ屋」で中東遠の看板が映って受付に批判しに来ている住民がいる事を聞き、当院が受け入れをスタートする事を知りました。

その数日前に陰圧個室のある病棟が、夜間で師長が不在の時間に看護副部長から「今日の夜にもしかしたら来るかも、よろしくね」と言われた。自分から志願した訳ではなく、「やりなさい」と言われマニュアルもなく、自分たちで作成しながらの仕事が開始され、初めて防護服を着たときは戦地に行くような気持ちであった。エレベーターに乗ろうとしても目が合うと閉めるボタンを連打される事があり、シャワー室や更衣室の共有を拒否され、医療現場の中でも偏見・差別があったと聞いています。

そういった時に、当院の院長は各部署を廻りスタッフの声を聞きすぐに改善しようと動いてくれて、一斉メールで「誹謗中傷があれば私が説明に廻ります」と心強い言葉がありました。パソコンをログインすると、病床率・今の県や中東遠地域の状況を伝えてもらえ、今現在も続いていますが、金曜日の夕方院長が院内放送で職員への感謝の言葉・職員が同じ目標に向かえるように目標設定や励ましがあります。マスクや手袋などの医療物資と院内の在庫と金額をメール配信し、不足の時には節約意識を持たせ危機感と在庫がある安心感を与えてくださいました。管理者会議の議事録でお金の動き等、秘密なしに開示してくれましたので、噂などで不安にならずにすみました。

テレビ・新聞取材を受け、感染対策や病院の活動を伝える事で、市民だけでなく県民が安心して過ごせるように配慮してくれました。

一斉休校になった時は、真っ先に院内学童を開催してくれたり、職員家族対象にワクチン職域接種や、掛川・袋井市の大規模集団接種への病院職員派遣・コロナ患者療養ホテル設立と職員派遣を行い、地域医療を支えてくれました。

私は 5 月～10/31 まで 6 ヶ月間コロナ病棟に所属し働いていました。

コロナ専用病床が出来、スタッフは異動し、病棟縮小と合併で、馴れない疾患を見る不安、帰宅しても勉強の日々、医師とのコミュニケーション、一般病棟でも面会制限をされ携帯電話を持っていない患者の精神的フォローと夕方の家族への状態電話で本当に毎日心身共に疲れ、志願しコロナ病棟に異動しました。

第 5 波は、8/10～徐々に入院者数が増え、1 日 6 人以上新規入院患者が居る日もありました。スタッフを集めようと思っても感染対策も、業務内容も一般病棟とは違うし、2 交代勤務を行っている以上夜勤調整が必要であり、10 時～20：45 までの 9 時間 45 分の遅番は 8 時間以上防護服を着て対応し休日出勤をする日が続き、水も飲みにでられない、夕方には

脱水で足がつったり、頭痛で鎮痛剤を内服し働きました。実際にコロナ病棟と一般病棟のどちらも体験し、医療現場はどこも今は大変なんだとつくづく感じました。
第 5 波中の当院では、現場の大変な状況も理解し、院内に災害対策チーム DMAT を発足し備品や薬剤の状況把握、スタッフの人数や入院患者数だけでなく自宅療養者数・ホテル療養者数を 1 日 2 回把握し、受け入れが追いつかなくならないように調整してくれたので、助かりました。。

医師・師長、事務スタッフ、看護学生が・・多い日は 147 人の自宅療養者に電話問診をし、自宅療養者の安心と事前に健康状態を把握し、夜間や休日の救急搬送による ER の負担軽減につながりました。

波は予測できなかったのか、準備はできなかったのか連日政府を責め立てるニュースばかりで、最初から居たスタッフの 1 人に聞いたら、5 波すべてが、症状も違うため次にこうなるだろうとは思えないと言っていました。今回は下痢の症状の患者が多く点滴者が多かったため余計に大変だったと話をしていました。

そのように予測出来なかった場合、現場の声をすぐに聞き入れてくれる柔軟さも感謝しています。言っても無駄だからと思うと何も前には進みません。多忙であると悪いところしか見られなくなりますが、こういった病院の活動や魅力を組合員に伝え、働き続けられるようにしていきたいと思います。

また、組合に加入していた事で県・全国の病院の活動内容、今起きている問題点と要求内容を聞く事で、直ぐに要求書を提出し成果を得る事ができました。
組合での勉強会の中で、感染者に対する誹謗中傷が相次いでいる。日本は個人の行動が「感染を招いた」とする自己責任論が萬延。感染する人は自業自得であるか質問したところ、自業自得だとは思わないがアメリカ･イギリス･中国は 60～70％であったが､日本は 29.25％ 3 割もの人が自業自得だと思っている事を学びました。

コロナ病棟で勤務する中で、合併症を患い高齢者が亡くなる前日に孫から電話があり「じーちゃんうつしてごめんな」と言っている姿、子供がコンサートに行ったときもホテルに泊めさせるなど感染対策を意識していたが、外仕事でマスクを外して話をし、感染した患者もおり、後悔をしたり数十分の出来事でも感染する事がある事を知ってもらいたいと思いました。病棟でスタッフ同士が何で感染が減らないんだろう。毎日こんなに大変と言っていても何の改善にもなりません。コロナ病棟の現状と、感染対策の発言をさせていただきました。発言の場を沢山下さり感謝しております。

今回のコロナ禍で大変な中、大切な物を沢山見つける事が出来ました。
まだ終息した訳ではありません。引き続き大変な状況が続きますが共に頑張りましょう。

（11 月 14 日静岡県評パート臨時労組連絡会が開催した「はたらくみんなの元気のでる集会」に提出された波多野さんの資料を参考に掲載します。）